

## 令和7年度 第2回甲府市行政改革を考える市民委員会 要旨録

日 時	令和8年1月20日（火） 午後3時00分～午後4時55分	
場 所	甲府市役所本庁舎7階 7-2会議室	
出席者	委 員 (7名)	佐藤委員（会長）、池田委員、渡辺委員、長田委員、武内委員、 浅田委員、角田委員
	所管課	新藤人事管理室長、小山田職員課長、神宮寺DX推進課長、 羽鳥財産活用課長、武田協働推進課長、鈴木協働推進課係長
	事務局	此田財政経営室長、青柳連携共創課係長、広瀬連携共創課主任
欠席者（1名）	大久保委員	
傍聴者（0名）		
記 者（0名）		

### 1 議 事

- (1) 「第2次甲府市行政改革推進プラン（2022～2025）」の令和7年度上半期実績報告について
- (2) その他

### 2 要旨録

会長

はじめに、議題（1）「第2次甲府市行政改革推進プラン（2022～2025）」の令和7年度上半期実績報告についてであります。

まず、「（1）働き方改革の推進」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

＜（1）働き方改革の推進「No.1 超過勤務時間の縮減」「No.2 年次有給休暇の取得促進」「No.3 業務の効率化、簡素化の推進」について説明＞

会長

それでは「（1）働き方改革の推進」について、ご質問、ご意見をお願いします。

委員

超過勤務時間の縮減や業務の効率化の観点でお聞きしたいのですが、職員への業務用の携帯電話やスマートフォンの貸与は行っているのでしょうか。

また、テレワークのためのPCの持ち運びなどの運用はどのようになっているのでしょうか。

所管課

防災関係や虐待通報などの24時間対応が求められる一部の部署には貸与しておりますが、導入コストや公用と私用の使い分けなどの課題があり、全職員への貸与は行っていません。

まだ検討段階ではありますが、固定電話から携帯電話へ切り替えることでナンバーディスプレイや通話録音が利用可能となり、業務効率の向上が期待されるため、庁内で議論を進めています。

## 所管課

テレワークにつきましては令和4年2月から試行的に実施しており、専用PCをDX推進課で用意し、テレワークを希望する職員に貸与しております。在宅勤務、モバイルワーク、サテライトオフィスの3形態がありますが、令和7年度の1月の利用実績は、在宅勤務が21件、モバイルワークが27件、サテライトオフィスは0件となっております。

## 委員

自治労も職場のスマート環境やICT環境を整えるように要望をしております。DXにより、職員の業務負担が軽減されるためには、携帯電話等の貸与はコストが掛かっても実施すべきだと考えます。

自治体が職員向けにスマートフォンの貸与を開始している事例もあり、業務改善や超過勤務の縮減にも効果的だと思いますので、ぜひ検討していただきたいです。

## 会長

導入コストとともに、導入する具体的なメリットを整理して検討されたほうが良いと思います。

## 会長

それでは、「(2) 人財育成の推進」に移らせていただきたいと思います。まず事務局からご説明をお願いします。

## 事務局

＜(2) 人財育成の推進「No.1 人事評価の見直し」「No.2 研修制度の充実」について説明＞

## 会長

それでは「(2) 人財育成の推進」について、ご質問、ご意見ををお願いします。

## 委員

進捗状況は「順調」となっていますが、人事評価は問題点も多く、とても難しいと思います。課題等はないのでしょうか。また、人事評価を人材育成に活かした具体的な事例があれば教えてください。

## 所管課

進捗状況は「順調」としておりますが個々の課題はあります。

職員に対して実施した満足度調査において捉えた人事評価制度の課題としましては、職員の育成のために「人事評価結果のフィードバック」を重視していると回答した管理職が少なく、人事評価が人材育成に有効に活用されていない現状が見えたことから、人事評価結果のフィードバックが職員の育成に繋がるような体制にしていかなければならないと認識しているところであります。

委員

職員の方は、概ね何年程度で異動されるのでしょうか。

所管課

一般職は、概ね3年程度となっております。

委員

そうしますと、業務に慣れた頃に異動することになると思いますので、職員の異動時期も踏まえて人事評価のフィードバックを行っていただきたいです。

委員

先ほどのお話にありました人事評価制度についての満足度調査では、他にはどういった課題があったのでしょうか。

所管課

他の課題としましては、令和2年度の満足度調査の結果と比較した際に、「今後も市の職員として勤めたい」と答えた職員の割合が少し減少したことや、給与についての設問で、「職歴や業務内容に応じた給与を得られていない」と答えた職員の割合が若手職員を中心に増えていましたので、職員の考えのひとつとして捉えて、今後の人事制度や給与の見直しを検討したいと考えております。

委員

若手職員の離職の増加や長期の勤続意識の低下は全国的な傾向として見られますが、せっかく業務を覚えてきた主任や係長が離職してしまうことは市としても影響が大きいと思いますので、管理職のマネジメントを強化して、若手職員の離職を増やさないようにしてもらいたいです。

また、能力に見合った給与に繋がるように、人事評価の能力評価については絶対評価で行うべきであることも管理職への研修で徹底してもらいたいです。

所管課

昔は公務員といえば終身雇用が当たり前でしたが、現在は転職も増えておりますし、一部にはメンタルの不調などによる休職から退職となってしまう職員もおりますことから、しっかりとした人事評価を行うとともに、より良い職場環境を作ることが求められますので、「人財マネジメント方針」や「管理職マネジメント指針」を策定し、人材の確保から育成、定着に努めております。

他にも、職員の昇進意欲の低さなど様々な課題がありますので、安全配慮義務から職場づくりや健康管理などについても取り入れた管理職向けの研修を行う中で、人材の確保や育成、定着に取り組んでまいりたいと思います。

## 委員

取組の進捗状況は「順調」ですが、人事評価の結果が実際の職場環境などに反映されているかどうかを読み取りにくい部分もありますので、今後は職員の満足度がどう上がったかなどをアウトカムにしたほうが良いのではないかと思います。

## 会長

それでは、次に「(3) デジタル化の推進」について、事務局から説明をお願いします。

## 事務局

＜(3) デジタル化の推進「No.1 行政手続きのオンライン化の推進」「No.2 データ活用基盤の整備と活用促進」「No.3 内部事務のデジタル化の推進」について説明＞

## 会長

それでは「(3) デジタル化の推進」について、ご質問、ご意見ををお願いします。

## 委員

直接取組に関連しませんが、マイナンバーカードの保険証についての通知を見たときに、難しい言葉が多くて分かりにくいと感じたので、市民からの問い合わせも増えているのではないかと思います。DX の推進も必要だと思いますが、もう少し単純で分かりやすい通知にしてもらうことも業務改善に繋がるのではないかと思います。

## 事務局

市民に情報を漏れなく伝えるという考えから、情報量が多くなってしまうことがあったかもしれませんが、現在は、市民に分かりやすい表現を使うように努めておりますので、引き続き改善していきたいと思います。

## 委員

課題に「AI の活用を他人事だと思ふ職員が多い」とありますが、それが課題ではなく、管理・監督職が AI に不慣れなために業務への AI の活用が進まず、AI を業務に活用できないことに困っている職員の方が多いのではないかと思います。実態はどうでしょうか。

## 所管課

昨年度の途中から対話型生成 AI を導入しており、生成 AI をプライベートで活用している人も増えてきていると認識しておりますが、業務への活用につきましては、若手職員のハードルは低い一方で、管理職を含めた年配の職員は使い方も含めてハードルが高い現状があります。そういった現状の解消に向けて、今年度から座学ではなく、実際にパソコンを使用して AI を体験する操作研修を実施しております。

このような取組を積み重ねて、業務の中で AI を使いやすい職場環境を作っていきたいと考えております。

委員

管理職が積極的に AI を活用して、若手職員の AI の活用を妨げないようにしていただきたい。

委員

DX の理解促進に関しては、従来の方法ではなく、使い方を理解している若手職員が、業務の流れを理解している管理・監督職に教えたほうが効果的な場合もあると思いますので、柔軟に考えていただければいいと思います。

委員

今はカスハラが問題になっており、長時間の電話対応なども発生している中で、そういった対応に AI の活用を検討している自治体も出てきていると聞きます。業務改善やメンタルなどの傷病による休職者の削減にも効果的であると思いますが、市の検討状況はいかがでしょうか。

所管課

金融機関をはじめとした民間企業で AI の導入に成功しているケースをいくつか認識しております。近年、市民のニーズも増えている一方で、苦情対応等も一定程度あり、職員の負担に繋がっていることもありますので、AI を活用したコールセンターの設置も技術的には可能であることから、AI の活用について関係部署と検討していく必要があると考えております。

会長

それでは、次に「(4) 公共施設等マネジメントの推進」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

＜(4) 公共施設等マネジメントの推進「No.1 低未利用資産の利活用」「No.2 公共施設の再配置」について説明＞

会長

それでは「(4) 公共施設等マネジメントの推進」について、ご質問、ご意見をお願いします。

委員

低未利用資産の利活用の伴走支援は、どなたがどなたに行っているのでしょうか。

所管課

財産活用課が、低未利用資産を所管する担当課に支援を行っております。

委員

低未利用資産は様々な所管課に跨ると思いますが、処分や効率的な PFI、PPP などを考える場合には横串を刺して一括で行う体制を整えたほうが効率的ではないかと思います。

所管課

各所管課にまたがる LED の更新につきましては、効率的な観点からも、財産活用課が予算計上を行って一括更新をしております。

委員

低未利用資産の利活用の部分につきましても、一括で行った方が効率的だと思いますので、ぜひご検討をお願いいたします。

委員

公共施設の再配置計画では、上下水道などのインフラの整備には、どの程度コストや時間が掛かると想定しているのでしょうか。

所管課

インフラにつきましては、上下水道局や道路河川課がそれぞれ長寿命化計画等を作成して取り組んでおり、現在作成しています公共施設の再配置計画の中では、公共施設や公民館などの建物を対象としております。

委員

公民館も市内に複数ありますが、再配置や統廃合などもこれから行うのでしょうか。

所管課

公民館の大半は地域の拠点施設になっておりますが、今後の人口減少を踏まえますと、同じ規模でいいのかという議論もありますので、統廃合につきましては、施設所管課と連携して検討していかなければならないと考えております。

委員

地域にある集会所などは市の財産ではないということでもいいでしょうか。

所管課

地域には本市所有の公民館以外にも、自治会の中でお金を出して建てている集会所がございます。基本的に市は関与しておりませんが、集会所の取得にあたり相談があれば市の土地を貸すことがあります。

会長

それでは、次に「(5) 協働の仕組みづくりの推進」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

< (5) 協働の仕組みづくりの推進「No.1 協働のシステムづくりの推進」について説明 >

## 会長

それでは「(5) 協働の仕組みづくりの推進」について、ご質問、ご意見をお願いします。

## 委員

進捗状況に7件のマッチング実現とありますが、取組項目では目的が課題解決となっておりますので、このマッチングにおいて、どのように課題解決に繋がっているのかを教えてください。

また、課題に記載のある利用が低調であることの原因等を分析していただければ、教えてください。

## 所管課

高齢化や担い手不足などを課題としている地域が多くありますので、相談を受けた際は、あつ活サポーター登録団体を地域に派遣し、地域活動を安定的・継続的に実施できるように支援を行っております。

マッチングした7件につきましては、地域のお祭りなどの地域の親睦を深めるイベント関係での要請が多く、利用いただいた地域の方からは、地域活動が継続でき、親交が深まったといった評価をいただいております。

ただ、自治会の数が500程度ある中で利用実績が7件に留まっていることは、この制度の周知が行き届いていないのではないかと考えております。

## 事務局

マッチング内容の補足になりますが、高齢化により地域のイベント開催が滞っている中で、大学のボランティア団体などをはじめとした、あつ活サポーター登録団体が中心となってイベントの開催を支援するなど、若者の力も生かした活動を行っております。

## 委員

とても良い取組なのに、なかなか広まらないという課題があると思いますが、大学生などの若者に、あつ活サポーター登録団体になってもらうための周知方法はどのように行っているのでしょうか。

## 所管課

広報誌なども活用しておりますが、各大学のボランティア団体にお声がけしております。また、ボランティアセンターに登録している学生団体にもお声がけして、登録をお願いしているところ です。

## 委員

自治会にも利用の呼びかけが必要だと思っておりますが、どのように周知を行っているのでしょうか。

## 所管課

自治会向けには、理事会で取組事例などを示しながら利用の促進を図っております。また、あつ活ニュースを発行して、自治会向けにご案内を行っております。

## 委員

「あつ活」というネーミングが一般名詞ではなく、若者にも自治会にも伝わりにくい気がするので、若者が参画したい、自治会が利用したいと思うような名前をもう少し考えてもいいのではないかと思います。

## 事務局

若者以外にも、地元企業にも登録団体として参画していただいておりますので、支援していただける団体を増やしていき、様々な悩みを抱える自治会の支援ができるように引き続き取り組んでまいります。

## 委員

協働の仕組みづくりは目的ではなく手段になると思いますが、あつ活サポーターの取組をすることが目的になってしまっていると感じます。あつ活サポーターの取組によって何をしたいのかが分かりにくいいため、利用が低調になってしまっているのではと思います。

行政改革によって魅力的な市になることが大事だと思いますので、大学生や企業を巻き込んで最終的に何をしてもらいたいかを分かりやすくしたほうが目的も明確になり浸透しやすくなると思います。

他の取組にも共通しますが、仕組みづくりは順調かもしれませんが、実際の活動に焦点を当てて進捗評価を行ってもいいのではと思います。

## 委員

それぞれの取組を、どういう目的でどのように活用していくのかを明確にしていく必要があると思います。

## 事務局

行政改革推進プランにつきましては、人口減少による人手不足や健全な行財政運営への対応などを主な目的としており、DX などによる職員の業務改善や、公共施設の再配置等による経費縮減、そして企業との連携による民間活力の活用といった報告となっております。

ただ、それぞれの取組には個別計画等があり、あつ活サポーターの場合は、「甲府市協働のまちづくり推進行動計画」の中で行政改革だけではなく、地域の活性化や自治会の支援に向けた取組を推進するなど、各事業も個別計画等の趣旨や目的の中でしっかりと取り組んでおります。

## 委員

今後は、KPI を定量的なものにして、目的や狙い、アウトカムを明確にすべきだと思います。そうすることで、委員の方々の知恵を持ち寄って議論ができるようになると思います。

## 委員

前回の委員会でも、マッチングがうまくいっていないという課題に対して、マッチングを促す場を設けたほうがいいのではとお話しましたが、その後、マッチングを促進する新たな取組をされているようであれば教えていただきたいです。

また、推測になりますが、自治会側が地域のイベントの開催を辞めてしまうなど、誰かに地域に来てもらい、活動を支援してもらおう体力が自治会に無い場合は、今の取組では支援ができない可能性もあるのではないかと思いますので、一度、自治会の実情なども踏まえた検証を行ってもいいのではと思います。

## 所管課

前回ご意見をいただきました、自治会とあつ活サポーター登録団体とのマッチングの場につきましては、今年度は用意できませんでしたが、来年度から5年計画となります「甲府市協働のまちづくり第4期推進行動計画」の中で、年2回程度交流の場を設けていくことを計画しておりますので、このような機会を通じて、自治会とあつ活サポーター登録団体とのマッチングを促進してまいりたいと考えております。

自治会側に利用する体力がないという可能性につきましては、市としても自治会の実態把握まではできておりませんので、こちらも第4期推進行動計画の推進と合わせて現状把握に努め、制度の充実を図ってまいりたいと思います。

## 委員

マッチングの場をうまく活用して、自治会側のニーズも引き出せると良いのではと思います。

## 委員

多くの若者は、自分のライフスタイルの中では自治会と接点を持つ必要性がないと思っているので、マッチングの場だけを設けても、なかなか若者と自治会をマッチングさせることは難しいと思います。自治会とは何かということや地域との協働など、自治会と関わる意識の醸成も行ってもらいたいと思います。

## 会長

それでは、最後に「(6) 連携によるまちづくりの推進」に進みたいと思います。事務局から説明をお願いします。

## 事務局

< (6) 連携によるまちづくりの推進「No.1 多様な主体との連携によるSDGsの推進」について説明 >

## 会長

それでは「(6) 連携によるまちづくりの推進」について、ご質問、ご意見ををお願いします。

委員

SDGs推進パートナーを増やすことも大切だと思いますが、連携による取組についての状況や成果について教えていただきたいです。

所管課

市としては、パートナーを増やすことが目的ではなく、パートナー同士の連携を促進して企業等の活性化に繋げてもらいたいと考えておりますが、なかなかSDGsを切り口に連携することが難しく、いくつかの連携事例はありますが、企業の事業や利益にまで繋がってはいないところです。

パートナーへのアンケート調査の中では、連携に繋がるような交流会の開催や、情報発信の支援を望む声が多いことから、パートナー同士の交流会の開催や、パートナーの情報を発信するデジタルサイネージを設置しておりますが、市としても連携に繋げることが難しく、課題と捉えております。

委員の皆様からパートナー同士の連携を促進するような意見やアイデアをいただけたらと思っております。

委員

ジャストアイデアにはなりますが、スタートアップ企業はSDGsに積極的なイメージがありますので、スタートアップ企業とSDGs推進パートナーが繋がる場があってもいいのではと思います。

委員

この事業も、最終的には連携を促すことが目的になるべきなので、SDGs推進パートナー登録制度も、パートナー同士の交流目的ではなく、パートナー同士の連携により新しいビジネスを生み出すことを目的にすることも1つの方法かと思いました。

会長

それでは、全体を通して、もし何か言い忘れた、聞き忘れたことがありましたら最後にお伺いできればと思いますが、いかがでしょうか。

委員

行政改革については、評価方法や会議の開催方法などを大きく変えて、市の他の会議とは異なる形にすることで、市民の方々からの好感も得られやすいと思いますので、ぜひご検討をお願いいたします。

委員

職員の名札を変更したことで視認性も上がり良くなったと思いますが、多様性も考えるとルビはローマ字でもいいのではないかと思います。

会長

次に、議題2「その他」につきまして、皆様から何かございますか。

事務局

＜甲府市行政改革大綱の次期総合計画への包含について説明＞

委員（各委員）

承知しました。

会長

それでは、以上をもって本日の議事が全て終了しましたので、事務局に進行をお返しします。  
ありがとうございました。